様式第5号（第9条関係）

論 文 内 容 の 要 旨

報告番号		氏　名	川口　千尋
Impact of Smoking on Pancreatic Cancer Patients Receiving Current Chemotherapy 化学療法を施行した膵癌患者に対する喫煙の影響			

論文内容の要旨

【背景】近年、新規抗がん剤や分子標的薬の登場により、癌治療は目覚ましい進歩を遂げている。膵癌は悪性度が高い癌腫である。進行が早く治癒切除を行っても術後再発率が極めて高い。、膵癌治療において、ゲムシタビンをはじめ新規薬剤を用いた化学療法は、治療の中心的役割を担っている。
喫煙は膵癌発生の危険因子としてよく知られているが、近年、喫煙が様々な薬理学的・血液学的作用により、化学療法の施行・効果に影響を及ぼす可能性が示唆されている。

【目的】今回我々は、膵癌患者における化学療法及び予後に対する喫煙の影響を検討した。切除例、切除不能例それぞれにおいて、喫煙状況と臨床病理学的特徴、化学療法施行状況、および予後との関連を評価した。

【対象と方法】2003 年 5 月から 2012 年 7 月までに化学療法を開始した膵癌患者 262 例を対象とした。切除例が 158 例、切除不能例が 104 名であった。Current smoker は喫煙習慣を有する患者、Ex-smoker は禁煙後 20 年経過した患者、never smoker は全く喫煙例のない患者、Nonsmoker は never smoker と Ex-smoker を含むものとした。

【結果】**①患者背景:**Current smoker 群では、男性、若年者が有意に多く、切除不能症例においては、遠隔転移例の割合が Nonsmoker 群と比較して有意に多かった。**②血液学的影響:** Current smoker 群において、化学療法施行前の白血球数、好中球数、ヘモグロビン値は Non-current 群と比較して有意に高値であった。さらに、Grade3以上の好中球減少症発生率は有意に低率であった。**③化学療法施行に対する影響:** 術後補助化学療法完遂症例（ゲムシタビン 1000mg/m^2、3 投1休 6 クール）72 例において、施行期間とゲムシタビン総投与量、無再発期間を比較した。Current smoker 群と Non smoker 群において有意差は見られなかった。**④予後:** 切除例、切除不能例それぞれにおいて Current smoker 群と Non smoker 群との予後の比較を行った。全生存期間に有意差は見られなかった。

【結論】本研究において、喫煙は膵がん患者の化学療法の施行には影響を及ぼさないことが明らかにあった。さらに、今回初めて、喫煙が膵癌の長期予後に影響しない可能性が示唆された。